

第 5 回 JCVP (日本獣医病理学専門家協会) 学術集会  
スライドフォーラム

第 58 回獣医病理学研修会  
出題標本 参考抄録集

2018 年 3 月 29 日 (木), 30 日 (金)

## 会場及び研修会担当機関

**会場** 〒020-0045  
岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号  
いわて県民情報交流センター アイーナ  
TEL：019-606-1717

**担当機関** 〒069-8501  
北海道江別市文京台緑町 582  
酪農学園大学 獣医学群 獣医病理学ユニット  
TEL/FAX：011-388-4906  
担当機関代表：松田 一哉 担当：佐野 悠人  
E-mail：kmatsuda@rakuno.ac.jp

\*本研修会の参加には、第5回日本獣医病理学専門家協会学術集会への参加登録が必要。

## 参加者、発表者、座長の皆様へ

### 参加者の皆様へ

1. **研修証**：本証の発行を希望される方は本抄録集に添付の証書に氏名を記入し、研修会当日「受付」に示し「日本獣医病理学専門家協会理事長之印」の捺印を受けて下さい。
2. **討論**：座長の司会によりフロアからの質疑および事前の用紙による質問・意見を中心に行います。「質問・意見用紙」は本抄録の末尾に添付してありますのでコピーしてお使い下さい。なお、この用紙は当該演題開始の30分前までに「受付の意見箱」に投函して下さい。
3. **標本配布先**：標本出題機関と有料配布機関を次頁に列記してあります。会員の方は鏡検の便宜を図って下さい。

### 発表者の皆様へ

1. **時間**：討論時間確保のため発表は5分以内とします。討論時間は座長に一任下さい。
  2. **発表**：会場のパソコン等の使用環境は以下の通りですのでご注意ください。  
パソコン：Windows PC (Macintosh は用意しておりません) OS：Windows 7  
解像度：XGA (1024×768)  
プレゼンテーション用ソフト：PowerPoint 2007・2010・2013・2016  
フォント：OS (Windows7) 標準
  3. **ファイル**：発表用 Power Point ファイルはファイル名を「演題番号 機関名 (例：1207 酪農大)」として USB メモリに保存し、会場入り口 PC 受付まで下記時間に直接お持ちください。  
3月29日発表の演題 (演題 No.1195～No.1211) 3月29日 11:30～12:30  
3月30日発表の演題 (演題 No.1212～No.1219) 3月29日 12:30～13:30
3. **スライド**：英文表記或いは英文・和文併記をお願いします。

### 座長の皆様へ

1. **司会**：各セクションに1名の座長をお願いしています。
2. **討論**：討論時間の配分は座長に一任されますが、フロアからの質疑、紙面による質疑、発表者からの最終診断・希望討議事項などを総括し、終了時間を厳守して進行して下さい。

## 第 58 回獣医病理学研修会標本配布先機関

出題機関	電話番号	有料標本配布機関	電話番号
<b>優先出題機関</b>		北里第一三共ワクチン	048-593-3967
帯広大	0155-49-5361	大正製薬（株）	048-669-3035
酪農大	011-388-4906	第一三共（株）安全性研究所	03-3680-0151
北海道大	011-706-5193	マルピー・ライフテック（株）	072-753-0335
北里大	0176-23-4371	（株）大塚製薬工場	085-685-1151
岩手大	019-621-6216	アイデックス・ラボラトリーズ（株）	0120-71-4921
東京大	03-5841-5401	エーザイ（株）	029-847-6946
農工大	042-367-5874	（株）サップス	029-879-5619
日獣大	0422-31-4151	富士フィルム（株）	0465-86-1157
麻布大	042-769-1628	（株）LSIメディエンス熊本研究所	0964-23-5111
日大	0466-84-3624	シオノギ製薬（株）	06-6331-8081
岐阜大	058-293-2943	日本新薬（株）安全性・動態研究部	075-321-9024
大阪府大	072-463-5346	（株）新日本科学 安全性研究所	099-294-2600
鳥取大	0857-31-5422	（株）ボゾリサーチセンター	053-467-1002
山口大	083-933-5890	中外製薬（株）	0550-87-6373
宮崎大	0985-58-7272	東レ（株）医薬研究所	0467-32-9255
鹿児島大	099-285-8668	日本たばこ産業（株）医薬総合研究所	0463-81-1277
動衛研・小平	042-321-1451	アステラス製薬（株）	029-829-6514
動衛研・つくば	029-838-7837	農工大 毒性学研究室	042-367-5689
日生研	0428-33-1042	日産化学工業（株）	0480-92-2513
JRA 総研	0285-44-0090	食品農医薬品安全性評価センター	0538-58-1266
LSI メディエンス	0479-46-2871	日精バイリス（株）滋賀研究所	0748-63-5251
摂南大	072-866-3162	サンリツセルコバ検査センター	044-850-4322
残農研	0297-27-4521	（株）四国細胞病理センター	087-899-6016
<b>公募出題機関</b>		旭化成ファーマ（株）	0558-76-8654
ノースラボ	011-827-7407	科研製薬（株）	054-635-2939
ACVP 日本人会	042-315-4092	大鵬薬品工業（株）（徳島）	088-665-5866
<b>計 25 機関</b>		（株）日本バイオリサーチセンター	058-392-6222
		JA 全農 家畜衛生研究所	043-486-1014
		第一三共 RD ノバーレ（株）	03-5696-4767
		<b>計 30 機関（1月27日時点申込順）</b>	

## プログラム

3月29日(木)	出題標本	座長
13:00～13:30	No. 1195 犬の脳 (鳥取大) No. 1196 猫の小脳・頸髄 (ノースラボ)	チェンバース ジェームズ (東大)
13:30～14:00	No. 1197 豚の脾臓 (動衛研・小平) No. 1198 牛の骨髄 (山口大)	平井卓哉 (宮崎大)
14:00～14:30	No. 1199 ウマの肺 (JRA 総研) No. 1200 チーターの胃とリンパ節 (麻布大)	小林篤史 (北大)
14:30～15:00	No. 1201 トナカイの結腸 (ACVP 日本人会) No. 1202 ブタの肝臓 (日生研)	堀内雅之 (帯広大)
<休憩 15:00～15:15>		
15:15～15:45	No. 1203 犬の肝臓 (大阪府立大) No. 1204 インコの肝臓 (岩手大)	酒井洋樹 (岐阜大)
15:45～16:15	No. 1205 マウスの肝臓腫瘍 (残農研) No. 1206 ラットの肝門部腫瘍 (摂南大)	上家潤一 (麻布大)
16:15～16:45	No. 1207 トドの肝臓腫瘍 (酪農大) No. 1208 ネコの膵臓 (農工大)	道下正貴 (日獣大)
16:45～17:15	No. 1209 牛の腹腔内腫瘍 (宮崎大) No. 1210 フェネックの腎臓 (日大)	畑井 仁 (鹿児島大)
17:15～17:30	No. 1211 豚の腎臓 (鳥取県倉吉家保、動衛研・つくば)	近藤広孝 (日大)
3月30日(金)	出題標本	座長
10:00～10:30	No. 1212 チーターの精巣 (日獣大) No. 1213 猫の子宮 (鹿児島大)	寸田祐嗣 (鳥取大)
10:30～11:00	No. 1214 犬の膈腫瘍 (岐阜大) No. 1215 犬の胸椎 (北大)	坂井祐介 (山口大)
11:00～11:30	No. 1216 ラットの大腿部腫瘍 (LSI メディエンス) No. 1217 犬の皮下腫瘍 (北里大)	鈴木和彦 (農工大)
11:30～12:00	No. 1218 牛の皮膚 (帯広大) No. 1219 猫の皮膚 (東大)	朴 天鎬 (北里大)

## 確定診断記入欄

	病理組織学的診断名
No. 1195	
No. 1196	
No. 1197	
No. 1198	
No. 1199	
No. 1200	
No. 1201	
No. 1202	
No. 1203	
No. 1204	
No. 1205	
No. 1206	
No. 1207	
No. 1208	
No. 1209	
No. 1210	
No. 1211	
No. 1212	
No. 1213	
No. 1214	
No. 1215	
No. 1216	
No. 1217	
No. 1218	
No. 1219	

# 出題標本參考抄錄

## 犬の脳

鳥取大学

**標 本**：脳、10%ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：犬、ヨークシャー・テリア、雄、約 10 歳齢

**臨床事項**：運動失調と振戦を示しており、画像検査により脳腫瘍が疑われた。プレドニゾンの投与により約 3 か月間維持したが、発作・狂騒症状が強くなり、安楽死となった。

**肉眼所見**：小脳の一部が大後頭孔より脱出し、脳は全域にわたり混濁していた。前頭葉～間脳部の断面は皮髄の境界が不明瞭で軟化しており、左側に主座した軟腫瘍様病巣がみられた。本病巣は周囲との境界が不明瞭であり、その一部は正中線を超えて右側に波及していた。



## Cerebrum of a dog

Tottori University

**Specimen:** Brain (cerebrum), 10% formalin fixed, HE stain.

**Animal:** Dog, Yorkshire Terrier, male, about 10 years.

**History:** The case showed dyscinesia and shivering. Brain tumor was suspected by MRI and the case was treated by prednisone for three months, however, euthanasia was performed due to poor prognosis.

**Gross findings:** A part of cerebellum vermis was herniated. The appearance of the brain was cloudy. On the cut surface of frontal lobe to diencephalon, the border of cortex and medulla became unclear and malacia, and soft mass-like lesions were found in the left side, and a part of the lesion was invaded into right side.

## 猫の小脳・頸髄

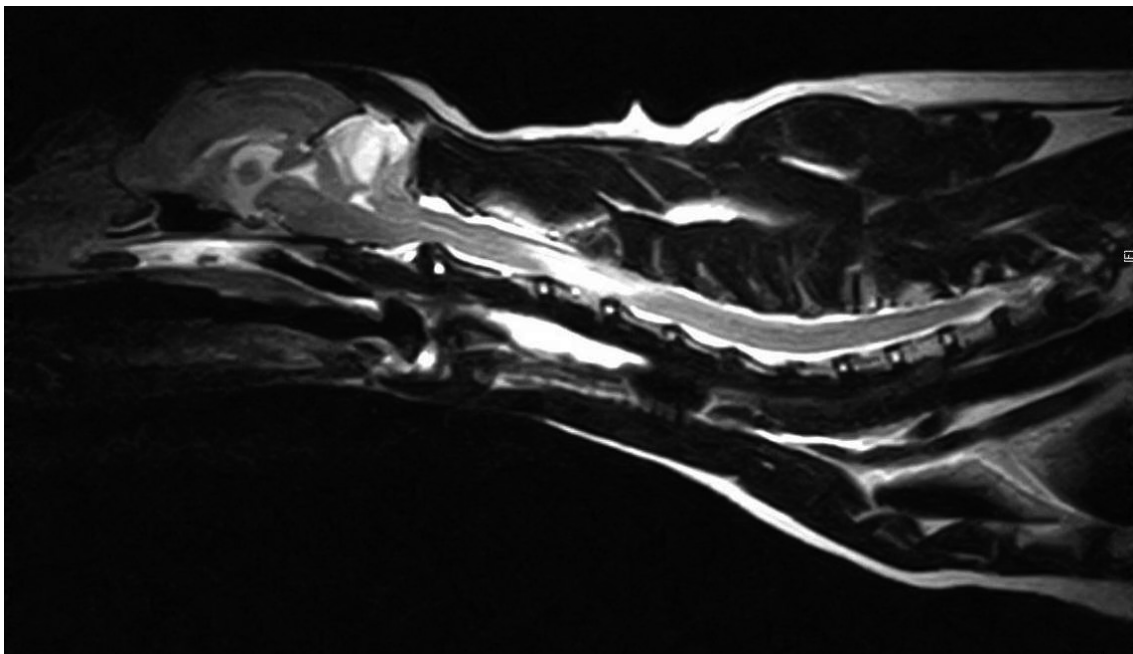
ノースラボ

**標 本**：小脳、第二頸髄、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：猫、雑種、去勢雄、9 歳

**臨床事項**：突然の四肢不全麻痺。頭部 MRI 検査にて、小脳の広範囲および第三頸椎の脊髄髄内に T2(下図)および FLAIR 高信号、T1 低信号、造影増強効果を示さない病変が認められた。翌日安楽殺され、脳、頸髄(第四頸椎椎体レベルまで)が当ラボに送付された。

**肉眼所見**：第一頸髄において軽度の出血が認められた。その他、特記すべき肉眼所見は認められなかった。



## The cerebellum and cervical spinal cord of a cat

North lab

**Specimen:** The cerebellum and second cervical vertebra (C2), fixed in 10% neutral buffered formalin solution, HE stain.

**Animal:** A 9-year-old castrated male Japanese domestic cat.

**History:** The cat exhibited acute limb paralysis. Magnetic resonance(MR) imaging showed an intramedullary lesion in C3 and widespread cerebellar lesions. The lesion was hyperintense on T2-weighted and fluid-attenuated inversion recovery MR images, hypointense on T1-weighted images, and did not exhibit any contrast enhancement after intravenous administration of gadolinium. The following day, the cat was euthanized and a necropsy was performed. The formalin-fixed samples from the brain and spinal cord (up to C4) was sent in our laboratory for histological examination.

**Gross findings:** Mild bleeding was observed in C1. There were no significant gross lesions in any other organs at necropsy.

## 豚の脾臓

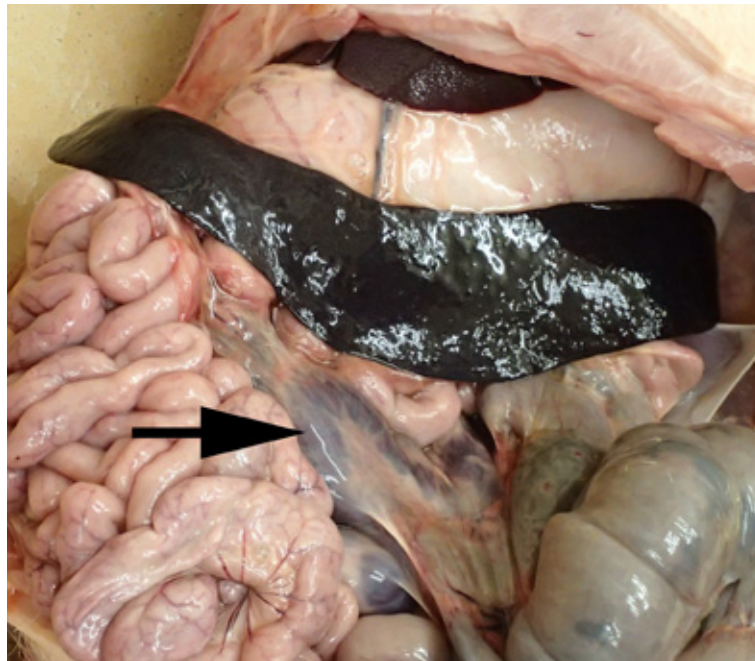
(国研)農研機構・動物衛生研究部門・小平

**標 本**：脾臓、10%緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：豚 LWD 8 週齢

**臨床事項**：本症例はアフリカ豚コレラウイルス感染実験に供された 1 頭である。筋肉内接種 3 日目から発熱 (40℃) がみられ、接種 4 日目には壁に寄り添うようにならずくまり、元気消失、食欲不振。接種 5 日朝に斃死して発見された。

**剖検所見**：脾臓が著しく腫大し、色は黒色調を呈していた (写真)。腹腔内のリンパ節の色は総じて黒色調を呈していた (写真)。腹水および胸水は著しく増量し、赤色透明を呈していた。顕著な肺水腫がみられた。扁桃は充血し、赤色調を呈していた。心外膜および胃粘膜と膀胱粘膜に点状出血が確認された。



黒色調を呈し腫大した脾臓と腸間膜リンパ節 (矢印)

## Spleen in a pig

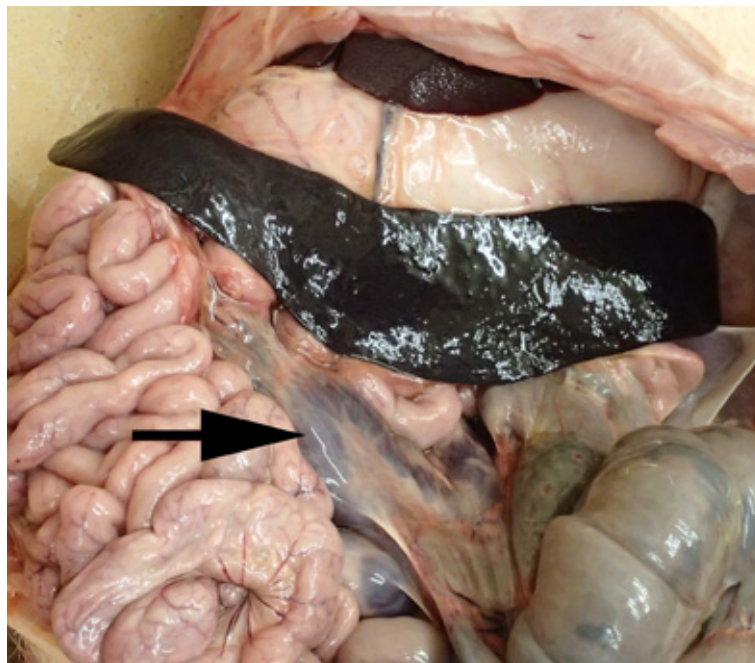
National Institute of Animal Health, Kodaira

**Specimen:** Spleen, 10% buffered formalin-fixed paraffin-embedded HE section.

**Animal:** Pig, LWD, 8-weeks-old.

**History:** This case submitted is a pig inoculated intramuscularly with a strain of African swine fever virus (ASFV). The pig developed a fever ( $40^{\circ}\text{C}$ ) from 3 days post-inoculation (dpi) and showed depression and loss of appetite at 4 dpi and then was dead at 5 dpi.

**Macroscopic findings:** The spleen was darkened and prominently enlarged (Fig). Intraabdominal lymph nodes were hemorrhagic, edematous and enlarged (Fig) and looked like dark red hematomas. Serohemorrhagic fluid in the abdominal and thoracic cavity were prominent. The lung was severely edematous. The tonsil was hemorrhagic. Petechial hemorrhage was observed in the epicardium and mucosa of the stomach and urinary bladder.



The spleen and mesenteric lymph node (arrow) are darkened and enlarged.

## 牛の骨髄

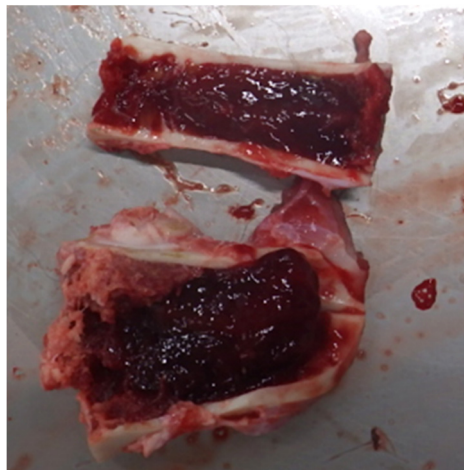
山口大学

**標 本**：骨髄、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：牛、黒毛和種、雄、122 日齢

**臨床事項**：生後 8 日より下痢症状を呈する。その後も発熱、下痢、呼吸器症状が繰り返し観察され、抗生剤などを投与しながら経過観察を行っていたが 122 日齢に斃死。42 日齢、59 日齢、73 日齢で行った血液検査ではいずれも赤血球数とヘマトクリットの低下が見られた。

**肉眼所見**：消化器では第一胃および第 4 胃に糜爛巣が散見され、呼吸器では肺炎と肺水腫が認められた。骨髄は赤色充実性であった。



## Bone marrow of a calf

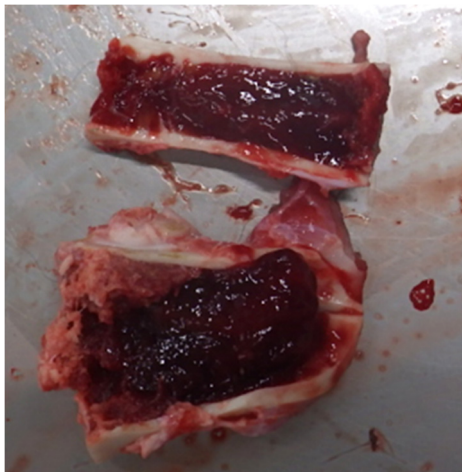
Yamaguchi University

**Specimen:** Bone marrow, fixed in 10% neutral buffered formalin, HE stain.

**Animal:** Cattle, Japanese black cattle, male, 122 days old.

**History:** At 8 days old, the cattle showed sign of diarrhea. After that, he continued to show fever, diarrhea, and respiratory symptoms repeatedly. Although, he was treated with antibiotics, he found dead at 122 days old. Decreased RBC count and hematocrit were noticed in the blood test performed at 42, 59, and 73 days old.

**Gross findings:** Multiple foci of erosion were found in the rumen and fourth stomach. In the lung were pneumonia and pulmonary edema. The bone marrow colored red.



## ウマの肺

JRA 総研

**標 本**：肺、20% 中性緩衝ホルマリン液固定、HE 染色

**動 物**：ウマ、サラブレッド種、騏、14 歳

**臨床事項**：本症例は1週間にわたる発熱（39.5°C）を認め、獣医師の診察を受けた。右飛節に疼痛を伴う腫脹が認められたため、フレグモーネと診断された。臨床検査では、白血球の増加（13,100 cells/mm<sup>3</sup>）が認められた。抗菌薬およびNSAIDsの投与が行われたが、本症例は発熱を繰り返し、炎症マーカーである血清アミロイド A 蛋白（SAA）は 3,120 mg/L（正常値 0~20 mg/L）であった。その後、約1ヶ月にわたり食欲減退や元気消失を呈したため、予後不良と判断し病理解剖に処した。

**肉眼所見**：剖検時、肺全葉にわたって充鬱血が認められた。肺実質には最大径 3 cm 大の白色～乳白色を呈する充実性の腫瘤が多病巣性に認められた。

**備考**：右飛節では、慢性皮下織炎および関節炎が認められた。肺、および全血からは病原性細菌は分離されなかった。



## Lung of a horse

Equine Research Institute  
Japan Racing Association

**Specimen:** Lung, fixed in 20% neutral-buffered formalin, HE stain.

**Animal:** Horse, Thoroughbred, gelding, 14 years old.

**History:** A thoroughbred horse was presented to a reference hospital with a one-week history of fever. On examination, the right hock was swollen and painful, suggesting cellulitis. A CBC showed leukocytosis ( $13.1 \times 10^3$  cells/mm<sup>3</sup>; reference range  $5 \sim 11 \times 10^3$  cells/ $\mu$ l). Although antiseptics and antibiotics were administered, intermittent fever and a high concentration of serum amyloid A (3,120 mg/L; reference range 0~20 mg/L) were still observed. In addition, the horse had inappetence and lethargy for one month. Given a poor prognosis, the horse was humanely euthanized.

**Gross findings:** At necropsy, the lung was diffusely congested. All lung lobes contain multifocal to coalescing, firm, white to tan, nodules, up to 3 cm in diameter.

**Remarks:** Chronic inflammation was observed in the right hock joint and the surrounding connective tissues. Lung and total blood were used for bacterial isolation, but no bacterium was isolated from them.

## チーターの胃とリンパ節

麻布大学

**標 本**：胃とリンパ節、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：チーター (*Acinonyx jubatus*)、雄、6歳

**臨床経過**：2017年7月24日食欲消失。7月27日麻酔下にて胃内視鏡検査を実施したところ、糜爛1箇所と点状出血2箇所を確認し、体温は40.9度であった。夕方、嘔吐。7月29日血液検査を実施したところ、血小板の減少 (PLT 9,000 個/ $\mu$ l)、白血球数 3,900 個/ $\mu$ l で、肝逸脱酵素の上昇がみられた。午前中に血液を含む胃液と肉片を3回嘔吐した。7月30日朝、吐血して第7病日に死亡した。同施設では4頭のチーターを飼育しており、雄2頭、雌2頭が、各々1つのオリで飼育されていた。本例死亡の20日前に雌1頭が同様の症状で死亡した (体温 40.3 度 WBC 1,700 個/ $\mu$ l、PLT 10,000 個/ $\mu$ l、吐血)。2頭ともに飼育施設の獣医師によって解剖され、臓器の一部が麻布大学に送付された。なお、現在残りの2頭には異常はみられない。

**解剖所見**：胃噴門部付近に出血を伴う約直径1センチの潰瘍1個が観察された。大量のタール状の内容物が口腔、食道、胃および腸管内にみられた。同様の内容物が気管内にもみられた。扁桃が片側性に腫大し、表面に線維素が付着していた。脾臓は中程度に腫大し、多発性骨髓脂肪腫を認めた。2頭のチーターの病理像はほぼ一致した。

材料の取り扱いは、厚生労働省重症熱性血小板減少症候群に関する指針に従った。

## Stomach and lymph node of a cheetah

Azabu University

**Specimen:** Stomach and lymph node, fixed in 10% neutral buffered formalin, HE stain.

**Animal:** Cheetah (*Acinonyx jubatus*), male, 6 years old (adult).

**History:** On July 24, 2017, he lost his appetite. Gastroscopy was performed under anesthesia on July 27; an erosive lesion and petechiae were observed in the cardia and the body temperature was recorded at 40.9°C. He vomited in the evening. On July 29, he vomited again in the morning, and the vomitus consisted of gastric juices, containing blood and meat pieces; blood tests were performed, which revealed thrombocytopenia (platelets(PLT) 9,000/ $\mu$ l) with a white blood cell count of 3,900/ $\mu$ l, and elevated liver enzyme levels. On the morning of July 30, he experienced another episode of hematemesis and died on the seventh day. This facility had four cheetahs, two females and two males, which were kept in separate rooms. One of the female cheetahs had died 20 days prior to the male's death, with similar preceding symptoms (body temperature 40.3°C, WBC 1,700 cells/ $\mu$ l, PLT 10,000/ $\mu$ l, hematemesis). The two cheetahs underwent necropsy by veterinarians at the breeding facility and parts of certain organs of both cheetahs were sent to Azabu University individually.

**Macro findings:** An ulcer approximately 1 cm in diameter with hemorrhage was observed in the gastric cardia. A large amount of tar-like content was discovered in the oral cavity, esophagus, stomach, and intestinal tract. Similar material was found in the trachea. One tonsil was swollen with fibrin adherent to its surface. The spleen was moderately enlarged and multiple myeloid lipomas were noted. The pathological findings of the two cheetahs coincided substantially. The deceased female cheetah showed multiple gastrointestinal ulcers, aspiration of hematemesis, and moderate splenomegaly. Currently, the two remaining cheetahs do not have health problems.

The material was handled in accordance with the guidelines of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome for the Ministry of Health, Labor and Welfare.

## トナカイの結腸

ACVP 日本人会 (JaGA)

**標 本**：結腸、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：トナカイ、去勢済雄、4 歳、体重 116kg

**臨床事項**：起立困難と元気消失を主訴に来院した。発症期間不明の下痢があり、以前から削瘦していた。紹介来院前に 3L の乳酸リンゲル液点滴、0.3mg/kg のデキサメサゾン静脈内投与、10mg/kg のチアミン静脈内投与、20,000IU のプロカインペニシリン皮下投与が行われていた。来院時、当該個体は横臥し、意識状態は鈍麻で、体温 42.6°C、心拍 96 回/分、呼吸数 20 回/分であった。口腔粘膜は充血しており、毛細血管再充満時間は 2 秒未満であった。眼球は見開かれた状態で、全ての眼球反射は消失していた。静脈カテーテルを留置し、輸液療法を開始した直後に斃死した。

**肉眼所見**：斃死体の外貌観察において、会陰周囲に糞便が付着していた。胸腔に約 50ml、腹腔に約 2.5L の、麦稈色、漿液血液状の液体が存在した。第一胃には十分な量の草と、20cm 長のプラスチック片 4 個、95cm 長のロープ、菓子のプラスチック包装 1 枚が認められた。第一胃の pH は 7.5 であった。第四胃の幽門部、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、盲腸、近位結腸の粘膜はび漫性に暗赤色で、出血と肥厚が認められた。小腸と盲腸は、赤緑色の水様～顆粒状の液体を含んでいた。遠位結腸に便は認められなかった。剖検の際、その他に肉眼的著変は認められなかった。

## Colon of a reindeer

Japanese Group of ACVP (JaGA)

**Specimen:** Colon. 10% neutral buffered formalin, HE stain.

**Animal:** 4 year-old, male neutered, 116 kg reindeer.

**History:** The reindeer was presented for being down and lethargy. The animal had been thin with an unknown duration of diarrhea. The animal was treated with 3 L lactated Ringers solution iv, 0.3 mg/kg dexamethasone iv, 10 mg/kg thiamine iv, and 20,000 IU procaine penicillin sq before referring to our hospital. At presentation, he was in lateral recumbency and obtunded. Temperature, pulse, and respiratory rate were 108.8F, 96 beats/min, and 20 breaths/min, respectively. Oral mucous membranes were hyperemic, with a capillary refill time less than 2 sec. His eyes were open, and all ocular reflexes were absent. An intravenous catheter was placed, and fluid therapy was initiated just before death of the reindeer.

**Gross findings:** There was fecal staining around the perineum. There was approximately 50 mL of straw-colored serosanguineous fluid in the thorax. The abdominal cavity contained approximately 2.5 liters of straw-colored serosanguineous fluid. The rumen contained adequate amounts of grass ingesta with approximately four 20 cm pieces of plastic, 95 cm of rope, and an “AirHeads” wrapper. The rumen pH was 7.5. The mucosa of the pyloric portion of the abomasum, small intestines (duodenum, jejunum, and ileum), cecum, and proximal colon was diffusely dark red, hemorrhagic and thickened. The fluid in the small intestines and cecum was red-green and watery to granular. There were no fecal contents in the distal colon. No other significant abnormalities were noted at gross pathology examination.

## ブタの肝臓

一般財団法人 日本生物科学研究所

**標 本**：肝臓、4%パラホルムアルデヒド・リン酸緩衝液固定、HE 染色

**動 物**：ブタ、雌、55 日齢

**臨床事項**：母豚 250 頭規模の養豚場の子豚において、ブルーイヤーを呈して、衰弱・死亡する個体が増加した。1 ロット当たりの発病率は約 20%、死亡率は約 1%であった。提出例は病性鑑定のために鑑定殺に供された 5 例のうちの 1 例である。

**肉眼所見**：鑑定殺に供された 5 例に共通して肺門リンパ節の腫脹が観察された。その他、提出例では暗赤色肺、腸間膜リンパ節の腫脹が認められた以外、肝臓を含む他の諸臓器に著変は認められなかった。

## Liver of a pig

Nippon Institute for Biological Science

**Specimen:** Liver, fixed in 4% paraformaldehyde phosphate buffer solution, HE stain.

**Animal:** Pig, female, 55-day-old.

**History:** In a 250-sow farm, there was an increase in death of piglets after showing blue ears, lethargy and weakness. The overall morbidity and mortality approximated 20% and 1%, respectively. Five affected piglets were euthanized for pathological examination. The presented case was one of them.

**Gross findings:** Swelling of the hilar lymph node was commonly observed in the five piglets. In the presented case, no noticeable changes were observed in other organs including the liver except for dark-reddish discoloration of the lung and swelling of the mesenteric lymph node.

## 犬の肝臓

大阪府立大学

**標 本**：肝臓腫瘍（外側左葉）、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：犬、ミニチュアダックスフント、雄、11 歳齢

**臨床事項**：近医にて、X 線検査およびエコー検査で肝臓腫瘍が疑われたため、本学獣医臨床センターを受診。肝外側左葉に 9×7×7 cm の腫瘍がみとめられ、外科切除を行った。

**肉眼所見**：腫瘍は軟性、断面は灰白色充実性で、内部に出血を混じていた。

**参考所見**：病変部の細胞は、免疫染色にて cytokeratin AE1/AE3、 $\alpha$ -SMA、calponin、p63 に陽性、CK 19、Hep par 1、chromogranin A に陰性を示した。なお、他の肝葉および他臓器に明らかな腫瘍性病変はみとめられず、本病変が原発と考えている。



断面肉眼写真



## Liver mass of dog

Osaka Prefecture University

**Specimen:** Liver mass (left lateral lobe), fixed in 10% neutral-buffered formalin, HE stain.

**Animal:** Dog, miniature dachshund, male, 11 years old.

**History:** Hepatic mass was detected by X-ray and echo examinations. The mass was located in the left lateral lobe and it was 9×7×7 cm in size. The mass was surgically excised.

**Gross findings:** The mass was soft and the cut surface was whitish, with hemorrhage in the center of the mass.

**Reference:** Immunohistochemically, the proliferative cells were positive for cytokeratin AE1/AE3,  $\alpha$ -SMA, calponin and p63, and negative for CK 19, Hep par 1 and chromogranin A. No obvious tumoral lesions were observed in the other hepatic lobes and the other organs; therefore this lesion is considered primary.

## インコの肝臓

岩手大学

**標 本**：肝臓、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：コザクラインコ (*Agapornis roseicollis*)、グリーンパイド、雄、2ヶ月  
齢

**臨床事項**：本例は体重減少、呼吸雑音、開口呼吸、飲水量増加を示し、糞便に運動性の桿菌が検出されたため、エンロフロキサシンが投与された。6日後、足指に白色結節が認められたため、関節痛風あるいは腎不全が疑われた。その翌日、斃死した。

**肉眼所見**：肝臓および腎臓は腫大していた。

No.1204

## Liver of a lovebird

Iwate University

**Specimen:** Liver, 10% neutral buffered formalin-fixed, HE stain.

**Animal:** Peach-faced lovebird, green pied, male, 2-month-old

**History:** The lovebird showed weight loss, mouth-breathing with abnormal respiratory sound and polyposia. Motile bacilli were found in the stool. The bird was injected with enrofloxacin. The lovebird revealed a whitish subcutaneous nodule at the toe 6 days after the first examination, which implied articular urate deposition and/or renal failure, and died the next day.

**Gross findings:** Enlargement of the liver and kidneys was noted.

## マウスの肝臓腫瘍

一般財団法人 残留農薬研究所

**標 本**：肝臓腫瘍（左葉）、10%中性緩衝ホルマリン液固定、HE 染色

**動 物**：マウス、ICR 系 SPF マウス [Cr1j:CD1(ICR)]、雄、83 週齢

**臨床事項**：当症例は、農薬の発がん性試験に用いた対照群の動物で、78 週間の投与期間の最終週に腹部膨満、自発運動低下を示し瀕死期解剖された。

**肉眼所見**：剖検時、肝臓は、全葉が粗大結節状の外観を呈し、加えて、腫瘍形成が右葉頭部（褐色、長径 20 mm）、左葉（淡褐色、長径 10 mm）および中間葉（褐色、長径 10 mm）に認められた。

**参考所見**：病理組織学的に、右葉頭部の腫瘍は肝細胞腺腫、中間葉の腫瘍は肝細胞癌であった。肝臓以外の臓器における病理組織所見の主なものとしては、心耳血栓、肺水腫が認められた。

## Hepatic mass in a mouse

The Institute of Environmental Toxicology

**Specimen:** Hepatic mass (left lobe), fixed in 10% neutral-buffered formalin, HE stain.

**Animal:** A male ICR [CrIj:CD1(ICR)] mouse, 83-week-old.

**History:** The animal belonged to a control group in a carcinogenicity study with a pesticide and was moribund-sacrificed due to decreased spontaneous motor activity and abdominal distension during week 78 when is the time of schedule-sacrificed.

**Gross findings:** At necropsy, liver showed a rough nodular appearance and was accompanied with mass formation in the cranial part of the right lobe (brownish, 20 mm in diameter), left lobe (pale brownish, 10 mm in diameter) and medial lobe (brownish, 10 mm in diameter).

**Additional findings:** Histopathologically, masses in the cranial part of the right lobe and medial lobe were hepatocellular adenoma and carcinoma, respectively. Major histopathological findings in the organs other than the liver were atrial thrombosis in the heart and pulmonary edema.

## ラットの肝門部腫瘍

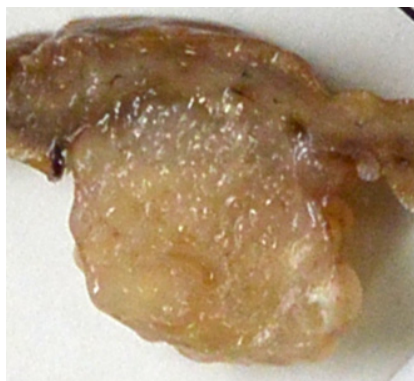
摂南大・薬・病理

**標 本**：肝門部腫瘍、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：RCS ラット、雄、130 週齢

**臨床事項**：未処置の長期飼育ラットで、被毛粗剛であったが 130 週齢の計画解剖まで一般状態に異常は認められなかった。

**肉眼所見**：肝臓の門部に認められた 20×10×10mm の白色腫瘍で十二指腸、膵臓と一部癒着していた。腫瘍は弾性軟で、断面では白色の小型嚢胞が密に形成されていた。その他、肝臓外側左葉に径 5mm の胆管の拡張を認めた。



固定後の断面

No.1206

## Hepatic portal mass of a rat

Setsunan univ.

**Specimen:** Hepatic portal mass fixed in 10% neutral buffered formalin, HE stain.

**Animal:** A male RCS rat, 130-week-old.

**History:** The rat was kept as non-treated animal in a long term rat study. No clinical signs except coarse hair were found until the scheduled sacrifice at 130 weeks of age.

**Gross findings:** A mass measured 20 x 10 x 10 mm, was observed in the hepatic portal region, and adhered to the duodenum and pancreas. The mass was soft, and the cut surface was composed of multiple small cysts. The other gross findings were observed dilatation of bile duct in lateral left lobe of the liver.

## トドの肝臓腫瘍

酪農学園大学

**標 本**：肝臓、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：トド、雌，推定 20 歳以上

**肉眼所見**：白色から黄白色で微小かつ不規則に密発する多房性嚢胞の腫瘍が肝臓と腹腔で多病巣性に認められた。最も大きな肝臓腫瘍は 23×22×11cm であり、この病巣断面は嚢胞最大径が 5mm であり、嚢胞内には無色透明あるいは黄白色透明な液体貯留が認められた。



No.1207

## Hepatic mass in the Sea lion (*Eumetopias jubatus*)

Rakuno Gakuen University

**Specimen:** Liver, 10% neutral buffered formalin fixed paraffin section, HE stain.

**Animal:** Sea lion (*Eumetopias jubatus*), female, over twenty years old.

**Gross findings:** Multifocal white or yellowish white masses were found in the liver and abdominal cavity. The maximum mass in the liver measured 23 × 22 × 11 cm in size. The cross section of it revealed multilocular cystic lesions consisting of numerous small, irregular cysts. The cysts were within 0.5 cm in diameter. The cystic lesions were filled with colorless clear or yellowish white fluid.

## ネコの膵臓

東京農工大学

**標 本**：膵臓、10%中性緩衝ホルマリン液固定、HE 染色

**動 物**：ネコ、雑種、去勢雄、12 歳

**臨床事項**：食欲廃絶を主訴に近医を受診し、重度の黄疸と Spec fPL の高値（ $19.8 \mu\text{g/L}$ ）を認めたため内科療法を実施したが、治療に対する反応がなかったため東京農工大学動物医療センターを紹介受診した。初診時、血液検査において、白血球数  $19,700/\mu\text{l}$ 、Ht27%、AST339U/L、ALTT445U/L、ALP2910U/L、GGT80U/L、T-BIL23.9mg/dl、 $\nu\text{-LIP}40\text{U/L}$ 、TG108mg/dl、TCHO $>450\text{mg/dl}$  を示した。腹部超音波検査では、膵臓の腫瘤（2 cm 大）による総胆管の圧迫と胆嚢管の拡張がみられ、CT 検査では、膵臓以外に腫瘤の転移所見は認められなかった。

**肉眼所見**：皮下組織および腹腔内臓器に黄疸が認められた。膵臓は表面粗造で、2 cm 大の腫瘤と周囲組織への浸潤性増殖が認められた。また、胃幽門部粘膜の糜爛および出血、小腸～大腸には黒色タール様の内容物が認められた。

## Pancreas of a cat

Tokyo University of Agriculture and Technology

**Specimen:** Pancreas, fixed in 10% neutral-buffered formalin, HE stain.

**Animal:** Cat, mongrel, spayed male, 12 years old.

**History:** The cat was seen in an animal clinic with a chief complaint of loss of appetite with severe jaundice and a high SpecfPL (19.8 ug/L) and was taken the treatment of internal medicine, but showed no response to the treatment. He was referred to Tokyo University of Agriculture and Technology Animal Medical Center. At the initial presentation, a blood biochemical analysis detected WBC, 19,700/ $\mu$ l; Ht, 27%; GOT, 339U/L; GPT, 445U/L; ALP, 2910U/L; GGT, 80U/L; T-BIL, 23.9mg/dl;  $\gamma$ -LIP, 40U/L; TG, 108mg/dl; TCHO, >450mg/dl. An abdominal ultrasound illustrated pancreatic mass (2 cm in diameter) with compression of common bile duct and dilatation of cystic bile duct. Computed tomography did not show any metastatic lesions except for pancreatic mass.

**Gross findings:** Jaundice was observed in the subcutaneous tissues and intraabdominal organs. The pancreas showed rough surface with 2-cm-dimetered mass with infiltrative lesions to surrounding tissues. Ulcer and hemorrhage were seen the pyloric region of the stomach and black tar-like contents were found in the small and large intestines.

## 牛の腹腔内腫瘍

宮崎大学

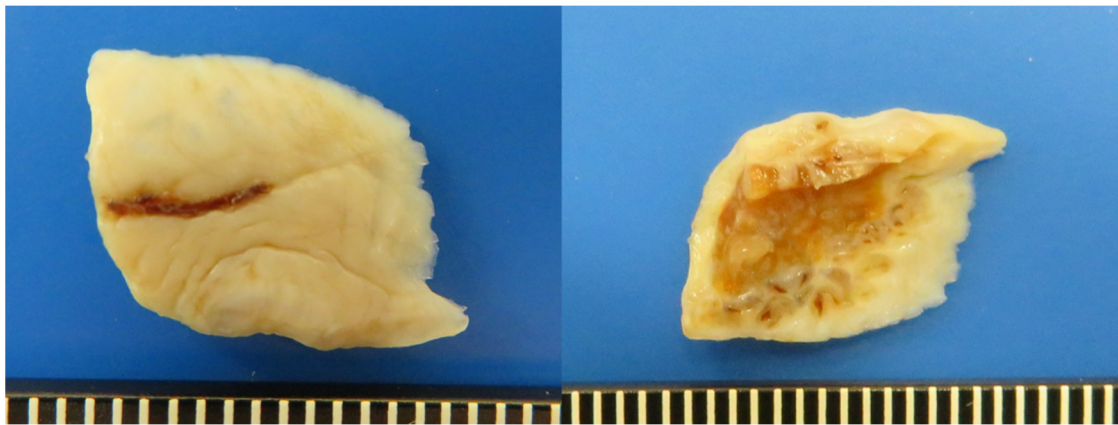
**標 本**：腹腔内腫瘍、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：牛（黒毛和種）、雄、6 ヶ月齢

**臨床事項**：本症例は腹腔内に存在し、左潜在精巣が疑われたため内分泌検査（hCG 負荷試験）が数回実施された。hCG 負荷前後での血中テストステロン濃度は、通常の去勢牛の場合と同様、検出限界以下であった。その後内視鏡下での外科的切除が行われた。

**肉眼所見**：摘出組織は直径約 1.5×1cm 大で、結合織によって包まれていた。断面中心部は黄褐色を呈し、その周囲は血管層で構成されていた。

**参考事項**：右精巣は内分泌検査以前に摘出済みであった。



## Abdominal mass in a calf

University of Miyazaki

**Specimen:** Abdominal mass, 10% neutral buffered formalin, HE stain.

**Animal:** Calf, Japanese Black, male, 6 months old.

**History:** Mass was observed in the abdominal cavity and suspected cryptorchidism. When the calf was tested for hCG administration test, testosterone concentration in the blood was undetectable. Finally, the mass was removed by endoscopic surgery.

**Gross findings:** The size of mass was 1.5×1cm and surrounded by thick connective tissue. The cut surface was yellow-brown color in the central area and composed of vessel tissue at the peripheral area.

**Referential matter:** Right side testis was already removed before hCG administration test.

## フェネックの腎臓

日本大学

**標 本**：腎臓、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：フェネック (*Vulpes zerda*)、雄、二ヶ月齢

**臨床事項**：初診時体重 420g。2 カ月間で体重 400g へ減少し、BUN の高値 (69mg/dl) が認められた。対症療法にて体重は 540g へ改善したものの、BUN は 106.0mg/dl と依然高値であった。その後、肺水腫や乏尿・無尿が認められ、死亡した。

**肉眼所見**：腎臓包膜剥離はやや困難。皮質はやや退色し、三層構造不明瞭。包膜下皮質は微細顆粒状であった。

No.1210

## Kidney of a fennec fox

Nihon University

**Specimen:** Kidney, fixed in 10% neutral buffered formalin, HE stain.

**Animal:** Dog, Fennec fox (*Vulpes zerda*), male, 2-month-old.

**History:** The fennec fox presented with gradual weight loss from 420 g to 400 g over the preceding two months. By blood biochemistry, elevation of BUN was noted (69mg/dl). After symptomatic treatment, body weight had been improved to 540 g, however, BUN was still high (106.0 mg/dl). The patient died after showing pulmonary edema and oliguria/anuria.

**Gross findings:** It was difficult to remove the renal capsule when bisected. The renal cortex was grayish, granular and gritty. The three-layer structure on the cut surface of the kidney was indistinct.

## 豚の腎臓

鳥取県倉吉家保・動衛研つくば

**標 本**：腎臓、15%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：豚、ミニブタ、雄、3歳

**臨床事項**：3歳のミニブタが元気消失、食欲低下を示し、1ヶ月半後に予後不良と判断され、剖検に供された。当該農場では8ヶ月前に子羊3頭を導入し、3頭のミニブタとともに同一畜舎内で飼養していた。これら3頭の同居ミニブタは2ヶ月前に死亡した。

**肉眼所見**：重度の腹膜炎が認められ、小膿瘍形成および肝臓、脾臓と腸管の癒着を伴っていた。肝臓と腎臓は重度に腫大していた。



No.1211

## Kidney of a pig

Kurayoshi livestock hygiene service center (Tottori pref.)  
National Institute of Animal Health

**Specimen:** Kidney, 15% neutral buffered formalin, HE stain.

**Animal:** Pig, Miniature pig, male, 3-year-old.

**History:** A three-year-old miniature pig was euthanized due to poor prognosis showing depression and anorexia for one and a half months. It had been bred three lambs and the other three miniature pigs in the same barn for six months until the other pigs died two months ago.

**Gross findings:** Severe peritonitis with small abscesses, adhesion of liver, spleen and intestine were observed. Liver and kidney were severely enlarged.

## チーターの精巣

日本獣医生命科学大学

**標 本**：右側精巣、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：チーター (*Acinonyx jubatus*)、雄、10 歳

**臨床事項**：本症例は国内繁殖個体であり、動物園で飼育されていた。10 カ月前より腎不全がみられ、皮下補液などの治療が行われていたが、呼吸状態の悪化により死亡し、病理解剖が実施された。精巣のみが当大学に送付され、病理検査が実施された。

**肉眼所見**：右側精巣は 2.5 x 2.1 x 1.8 cm 大で弾力があり、断面は黄褐色調を呈した。

**参考所見**：精巣は両側とも同様の病変が認められた。外部機関による病理解剖検査では、アミロイド症（肝臓、腎臓）、肺水腫、脾臓の多発性骨髄脂肪腫などが観察された。

## Cheetah, Testis

Nippon Veterinary and Life Science University

**Specimen:** Right testis, 10% neutral buffered formalin, HE stain.

**Animal:** A 10-year-old male cheetah.

**History:** The cheetah had been kept in a zoo over the course of his life. The animal had received treatment for renal failure for 10 months, eventually died by worsening of respiratory status, and was subjected to necropsy. The testes were submitted to the Department of Veterinary Pathology, Nippon Veterinary and Life Science University for histological examination.

**Gross findings:** The right testis, measuring 2.5 x 2.1 x 1.8 cm, possess a certain degree of elasticity. The cut surface was homogeneously brownish yellow in color.

**Additional findings:** The histological findings of the opposite testis were almost similar. Various lesions, including hepatic and renal amyloidosis, pulmonary edema and splenic multiple myelolipoma were observed in the necropsy examination conducted by an external institution.

## 猫の子宮

鹿児島大学

**標 本**：子宮、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：猫、雑種、雌、15 歳齢

**臨床事項**：てんかん発作の既往歴があり、定期検診のために本学附属動物病院に来院した。腹部超音波検査にて子宮壁の拡張が認められたため、外科的切除により子宮および卵巣が摘出された。

**肉眼所見**：左右両側ともに子宮角は不規則に著しく腫大していた。断面においては内腔から漿膜にかけて子宮壁を置換するように黄白色充実性腫瘍が認められた。

## Uterus of a cat

Kagoshima University

**Specimen:** Uterus, 10% neutral buffered formalin-fixed, HE stain.

**Animal:** Cat, Mixed breed, female, 15 years old.

**History:** The cat had a history of epileptic seizures and was brought to Kagoshima University veterinary teaching hospital for a routine medical examination. Abdominal ultrasonography detected thickening of the uterine wall and the uterus and ovary of the cat were removed.

**Gross findings:** Both of the uterine horns were enlarged irregularly and remarkably. On the cut surface, the yellowish-white, solid masses were distributed from the luminal surface to the serosal surface and the uterine wall was replaced with these masses.

## 犬の膣腫瘍

岐阜大学

**標 本**：膣腫瘍、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：犬、トイプードル、雌、11歳6ヶ月齢

**臨床事項**：膣内のしこりを主訴に動物病院に来院。身体検査では、膣内に 1.5cm 大の腫瘍および左右乳房部に複数の腫瘍が認められた。膣腫瘍の一部には出血も見られた。膣腫瘍および一部の乳房部腫瘍の切除とともに避妊手術を実施した。陰部内腫瘍と乳房部腫瘍が病理検査のために当研究室に送付された。乳房部腫瘍は乳房複合癌であった。

No.1214

## Vaginal mass of a dog

Gifu University

**Specimen:** Vaginal mass, 10% neutral buffered formalin, H&E stain.

**Animal:** Dog. Toy Poodle, female, 11 years 6 month old.

**History:** A dog was presented to private animal hospital because of a vaginal mass. The vaginal mass was 1.0-1.5 cm in size, and mammary gland tumors were also detected. The vaginal mass and one of the mammary gland tumors were removed surgically, and the dog was also spayed simultaneously. These masses were submitted to Gifu University for histopathological examination. The mammary gland tumor was diagnosed as a complex carcinoma.

## 犬の胸椎

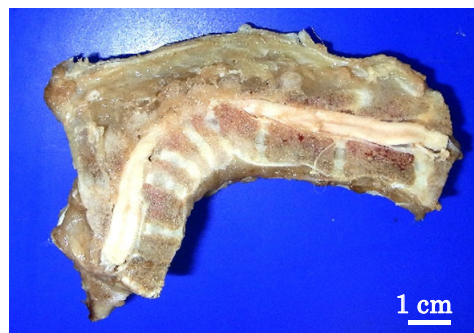
北海道大学

**標 本**：第 7-10 胸椎、10%中性緩衝ホルマリン固定、ギ酸脱灰、HE 染色

**動 物**：犬、柴犬、去勢雄、9 歳

**臨床事項**：2014 年、ホームドクターにて低リン血症と診断され、北海道大学動物医療センターを紹介受診。元気消失、四肢のこわばりが認められ、尿検査の結果尿中へのリン排出量の増加が認められた。リンの補充療法およびビタミン D 投与による治療の結果、ある程度状態は改善した。2017 年 8 月の段階では経過良好であったが、同年 12 月に入り食欲低下および歩行困難が認められ、同月 13 日に死亡した。

**剖検所見**：全身骨組織の粗鬆化が認められた。第 7~10 胸椎は重度に短小化し、脊髄の圧迫が認められた。また左右全ての肋骨において、肋軟骨結合部から約 2 cm 背側部の位置に骨の腫大が認められた。



第 7~10 胸椎の短小化



## Thoracic vertebrae in a dog

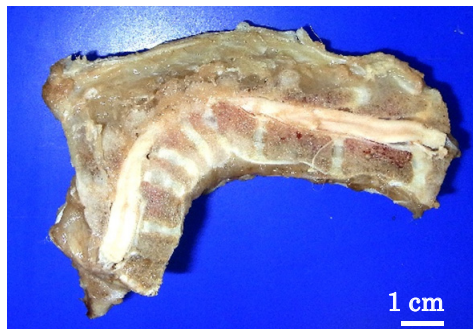
Hokkaido University

**Specimen:** Seventh to tenth thoracic vertebrae fixed with 10% neutral-buffered formalin and decalcified with formic acid, HE staining.

**Animal:** Nine-year-old, castrated male, Shiba dog (*Canis lupus familiaris*)

**History:** The dog presented to the Hokkaido University Veterinary Teaching Hospital with hypophosphatemia in 2014. Hypodynamia and stiffness in the extremities were observed. A urine test revealed that phosphorus output in the urine was increased. Phosphorus supplemental treatment and administration of vitamin D slightly improved his condition. Although he was doing well as of Aug. 2017, loss of appetite and difficulty walking were found in Dec. and he died on 13<sup>th</sup> Dec.

**Necropsy findings:** Bones throughout the body were brittle. The seventh to tenth thoracic vertebrae were severely shortened with compression of the spinal cord. Enlargements of the ribs at 2 cm dorsal area from the sternochondral junctions were also found.



Shortened seventh to tenth thoracic vertebrae.

## ラットの大腿部腫瘍

(株)LSIメディエンス

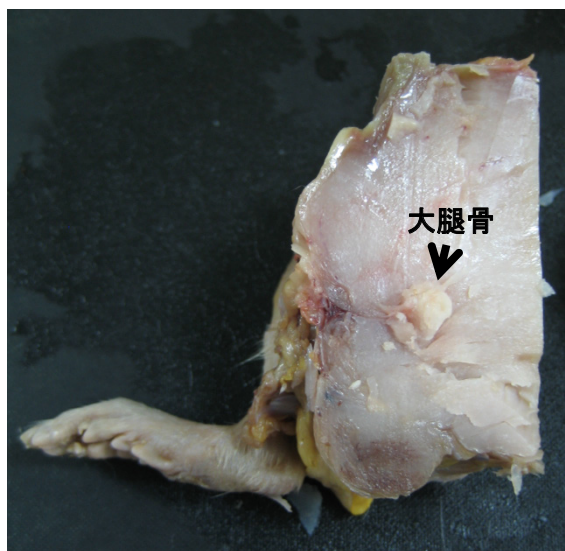
**標 本**：大腿部筋肉内腫瘍、10%リン酸緩衝ホルマリン固定、HE 染色

**動 物**：ラット、Cr1:CD (SD)、雌、101 週齢

**臨床事項**：る化合物の癌原性試験における低用量群の動物で、一般症状として歩行異常、呼吸不整がみられ、死亡発見されたため剖検をおこなった。

**肉眼所見**：右大腿部筋肉内に直径約 6cm 大の腫瘍が認められ、一部骨盤腔に浸潤していた。腫瘍の断面は充実性、乳白色であった。

**参考所見**：剖検時、腫瘍による圧迫に関連して膀胱の拡張および腎臓の多発性白色斑が認められ、組織学的には膀胱炎および細菌性腎盂腎炎であった。その他、下垂体前葉の腺腫、乳腺の線維腺腫などが認められたが、全身諸臓器いずれにおいても大腿部腫瘍と同様の組織像を示す変化は認められなかった。また、本病変は被験物質投与と関連ないものと判断している。



## Femoral Mass of a Rat

LSI Medience Corporation

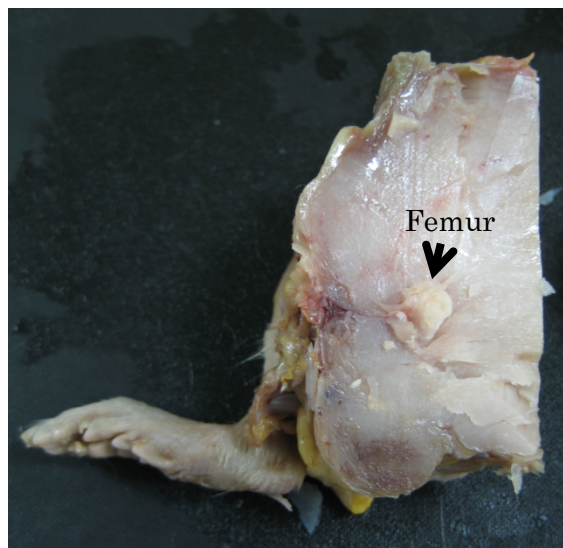
**Specimen:** Femoral mass in the muscle, 10% neutral buffered formalin-fixed, HE stain.

**Animal:** Rat, CrI:CD(SD), female, 101 weeks old.

**History:** The rat receiving a low dose compound in a carcinogenicity study clinically showed abnormal gait and irregular respiration. Necropsy was performed because it was found dead before scheduled sacrifice.

**Gross findings:** A mass, 6 cm in diameter, was found in the right femoral muscle which extended into the pelvic cavity. The cut surface of the mass was solid and milky white.

**Referential findings:** At necropsy, distention of the urinary bladder and multiple whitish patches in the kidney attributed to mass compression were observed. These lesions were histologically diagnosed as cystitis and bacterial pyelonephritis. There were no histopathological findings associated with the femoral mass in the systemic organs, and pituitary adenoma of anterior lobe and mammary fibroadenoma were found. The femoral mass was not considered to be test article related.



## 犬の皮下腫瘍

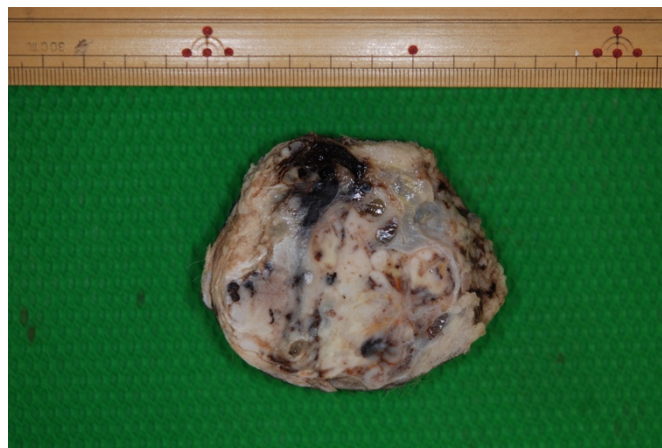
北里大学

**標 本**：左頸部皮下腫瘍、10%リン酸緩衝ホルマリン液固定、HE 染色

**動 物**：犬、北海道犬、避妊雌、13 歳齢

**臨床事項**：全身性脱毛のため、セファレキシン、ステロイド、抗アレルギー剤 2 種、イベルメクチンおよび混合剤による長期治療を受けていたが、完治している。

**肉眼所見**：腫瘍は、皮膚炎の治療開始時から存在し、左頸部のやや下部にこぶの様にぶら下がった状態で発見された。腫瘍は球状、約 6 cm 大であり、既存の脂肪組織を巻き込んでいた。腫瘍の断面は概ね白色髄様を呈していたが、数カ所においてゼリー状物を容れる大小の嚢胞が混在していた。



## Canine Subcutaneous Mass

KITASATO University

**Specimen:** Subcutaneous mass on left side of the cervical skin, fixed with 10% neutral-buffered formalin, HE stain.

**Animal:** Hokkaido Inu, Spayed female, 13 year-old.

**History:** This dog has received long term medication for systemic alopecia and was completely healed by treatments of cephalexin, steroid, two kinds of anti-allergic drugs, ivermectin or these mixed drugs.

**Gross findings:** The mass already existed at the beginning of the medical treatment, and was found hanging like a hump at the slightly lower part of the left cervical cutaneous region. The mass is spherical, approximately 6 cm in diameter, involved pre-existing adipose tissue. On the cut surface, this mass showed white medullary appearance with several cyst vary in size, and the cysts contained jelly-like contents.

## 牛の皮膚

帯広畜産大学

**標 本**：皮膚、15%中性緩衝ホルマリン固定

**動 物**：牛(ホルスタイン種)、雄、9日齢

**臨床事項**：本例は、出生時から乳頭腫様の腫瘤が体表に多数存在していたため、病勢鑑定のため本学に搬入された。

**肉眼所見**：頭部では耳介部(提出標本)および鼻周囲を中心にカリフラワー様の隆起病変が観察された。四肢および尾部では局面状の隆起病変が帯状に分布しており、一部では直径2mm大の乳頭状の隆起が密発していた。

**参考所見**：尾根部腹側に皮膚垂様の構造物がみられた。腹腔内および胸腔内臓器では著変は認められなかった。



No.1218

## Skin of a calf

Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine

**Specimen:** Skin, fixed in 15% neutral buffered formalin, HE stain.

**Animal:** Bull (Holstein), male, 9 days old.

**History:** The calf was born with numerous papillary lesions on the body surface.

**Gross findings:** Cauliflower-like lesions were observed in the head region, especially around the ears (submitted specimen) and nose. Lesions on the limbs and tail consisted of cingulate plaques and occasional foci of dense 2 mm diameter papillary tubercles.

**Additional findings:** A skin tag-like structure was seen on the ventral part of the tail. No pathological changes were observed within internal organs.

No.1219

## 猫の皮膚

東京大学

**標 本**：皮膚、10%中性緩衝ホルマリン固定パラフィン包埋標本、HE 染色。

**動 物**：猫、雑種、去勢雄、17歳。

**臨床事項**：乳腺部および左頸部に皮膚腫瘍を認めたため外科的に摘出した。左頸部の腫瘍を標本として提出した。



No.1219

## Cat, skin

The University of Tokyo

**Specimen:** Skin, 10% neutral buffered formalin-fixed, paraffin-embedded, HE stain.

**Animal:** Cat, mixed breed, castrated male, 17 years old.

**History:** Skin masses in the mammary gland and in the left cervical area were surgically removed. Histological slides of the mass in the cervical skin are provided.

## JCVP スライドフォーラム(獣医病理学研修会)開催要領申し合わせ

(平成 22 年 3 月 27 日改正)

(平成 28 年 3 月 29 日改正)

### 1. 出題について

- 1) 1 回の出題総数は原則 25 題を上限とする。ただし JCVP 学術集会ごとに上限を設定し、下記の要領に従い出題公募してもよい。
- 2) 下記の 23 機関は優先的に出題できる。ただし、引き続き 3 年間出題しなかった場合は優先権を失う。  
帯広大、酪農大、北大、北里大、岩手大、東大、農工大、日獣大、麻布大、日大、岐阜大、大阪府大、鳥取大、山口大、宮崎大、鹿児島大、動衛研・北海道支所、動衛研・つくば、日生研、JRA 総研、LSI メディエンス、摂南大、残農研。
- 3) 公募出題機関の要件は、原則として JCVP 会員を 2 名以上有する機関または研究会などの組織とする。出題希望が設定された上限を上回る場合は、研修会ごとに、出題機関を決定し、JCVP 理事会の承認を得る。
- 4) 1 出題機関からの標本提出枚数は 65 枚（破損分 5 枚を含む）とする。

### 2. 標本の配布について

- 1) 上記 1-2) 優先機関 23 機関と、1-3) の出題機関には無料で配布する。
- 2) 上記 2-1) 以外の機関には有料（1 セット 3 万円）で配布する。  
有料配布（約 35 セット）は原則として JCVP 会員を 2 名以上有する機関から公募する。希望が多い時は、1 研修会ごとに学会理事会で抽選を行い、配布機関を決定する。

### 3. 研修証の発行について

- 1) 研修会参加者の内、希望者には JCVP 名で研修証を発行する。

## 獣医病理学研修会のあゆみ

回	年月日	標本番号	出題数	世話機関	会場
1	1961.4.1	1-13	13	北大	家衛試
2	1962.4.5	14-29	16	東大	東大
3	1963.4.10	30-43	14	家衛試	家衛試
4	1964.4.8	44-58	15	麻布大	家衛試
5	1965.4.8	59-73	15	日大	日大
6	1966.4.4	74-89	16	日獣大	日獣大
7	1967.4.8	90-103	14	農工大	農工大
8	1968.4.8	104-120	17	北大	エーザイ
9	1969.4.7	121-137	17	家衛試	家衛試
10	1970.4.1	138-152	15	東大	エーザイ
11	1971.4.4	153-166	14	麻布大	エーザイ
12	1972.4.5	167-182	16	日大	日大
13	1973.4.5	183-199	17	農工大	農工大
14	1974.4.10	200-218	19	日獣大	日獣大
15	1975.4.6	219-232	14	東大・医科研	医科研
16	1976.4.6	233-253	21	北大	医科研
17	1977.4.1	254-274	21	家衛試	医科研
18	1978.4.2	275-294	20	麻布大	医科研
19	1979.4.2	295-315	21	農工大	日大
20	1980.3.26	316-336	21	日大	医科研
21	1981.4.6	337-357	21	日獣大	日獣大
22	1982.4.1	358-378	21	北大	医科研
23	1983.4.1	379-399	21	東大	医科研
24	1984.4.6	400-422	23	家衛試	医科研
25	1985.4.1	423-444	22	麻布大	医科研
26	1986.4.3	445-465	21	日大	日大
27	1987.4.2	466-486	21	帯畜大・日大	日大
28	1988.3.31	487-505	19	酪農大・日獣大	公衆衛生院
29	1989.3.31	506-522	17	北里大・日競研	北里大
30	1990.10.1	523-542	20	岩手大	岩手大
31	1991.10.15	543-562	20	宮崎大	宮崎大
32	1992.10.1	563-582	20	岐阜大	岐阜大
33	1993.9.29	583-608	26	北大	北大
34	1994.10.4	609-630	22	山口大	山口大
35	1995.9.4	631-656	26	北里大	北里大
36	1996.11.9	657-682	26	鳥取大	鳥取大
37	1997.8.28	683-707	25	帯広大	幕別温泉ホテル緑館
38	1998.10.9	708-733	26	鹿児島大	鹿児島大
39	1999.8.20	734-760	27	酪農大	酪農大
40	2000.10.12	761-785	25	化血研・摂南大	熊本国際交流会館
41	2001.10.6	786-809	24	大阪府大	大阪府大
42	2002.10.8	810-833	26	岩手大	つなぎ温泉ホテル紫苑
43	2003.9.18	834-857	22	岐阜大	岐阜大
44	2004.10.2	858-878	21	北里大	奥入瀬溪流グランドホテル
45	2005.3.29	879-905	27	理化学研究所	和光市民文化センター
46	2006.3.21	906-927	22	日生研	エポカルつくば
47	2007.4.3	928-949	22	動衛研	エポカルつくば
48	2008.3.28	950-972	23	麻布大	麻布大
49	2009.4.2	973-996	24	JRA総研	栃木県総合文化センター
50	2010.3.26	997-1021	25	日獣大	日赤看護大
51	2011.9.20	1022-1045	24	農工大	大阪府大りんくうキャンパス
52	2012.3.27	1046-1069	24	麻布大	大宮ソニックシティ
53	2013.3.28	1070-1094	25	東大	東大駒場キャンパス
54	2014.3.29	1095-1118	24	岩手大	麻布大
55	2015.3.27	1119-1144	26	宮崎大	大阪府大
56	2016.3.29	1145-1168	24	帯広大	三鷹市公会堂
57	2017.3.30-31	1169-1194	26	鹿児島大	タワーホール船堀
58	2018.3.29-30	1195-1219	25	酪農大	いわて県民情報交流センター アイーナ

第14回から座長制、第15回から日本獣医学会病理分科会主催、第27回から全機関が順番に世話機関、第30回から秋季に開催、第33回から出題機関の拡大および研修証発行、第44回から春季日本獣医学術集会プログラムの1セッションとして開催、第51回は東日本大震災の為、秋に開催。第54回からJCVP学術集会に含め春に開催。

## 獣医病理学研修会への近年の年度別出題状況

出題機関	第51回	第52回	第53回	第54回	第55回	第56回	第57回	第58回
<b>優先出題機関</b>								
帯広大	○	○	○	○	○	○	○	○
酪農大	○	○	○	○	○	○	○	○
北大	○	○	○	○	○	○	○	○
北里大	○	○	○	○	○	○	○	○
岩手大	○	○	○	○	○	○	○	○
東大	○	○	○	○	○	○	○	○
農工大	○	○	○	○	○	○	○	○
日獣大	○	○	○	○	○	○	○	○
麻布大	○	○	○	○	○	○	○	○
日大	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜大	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪府大	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥取大	○	○	○	○	○	○	○	○
山口大	○	○	○	○	○	○	○	○
宮崎大	○	○	○	○	○	○	○	○
鹿児島大	○	○	○	○	○	○	○	○
動衛研・北海道支所	—	—	○	—	—	○	—	—
動衛研・小平	—	—	—	○	—	—	○	○
動衛研・つくば	○	○	○	○	○	○	○	○
日生研	○	○	○	○	○	○	○	○
JRA総研	○	○	○	○	○	○	—	○
LSIメディエンス	○	○	○	○	○	○	○	○
摂南大	○	○	○	○	○	○	○	○
残農研	○	○	○	○	○	○	○	○
<b>公募出題機関</b>								
住化テクノ	○							
安評センター			○		○			
マルピー・ライフテック		○						
参天製薬					○		○	
動衛研・九州					○			
動衛研・東北	○							
ACVP日本人会 (JaGA)		○	○	○	○	○	○	○
ノースラボ							○	○
みどりの獣医病理研究会							○	
<b>招聘出題機関</b>								
韓国								
タイ								
インドネシア								

○：出題、—：出題なし

## 発表者の皆様へ

獣医病理学研修会での発表症例の記録・記事は、日本獣医病理学会・獣医病理学研修会ホームページ (<http://www.nibs.or.jp/index.html>) の中に掲載されております。つきましては今回の研修会で発表された症例の記録・記事については、下記の原稿記載要領に従い原稿と図(写真)を作成いただき、原稿締め切り日(平成30年9月末日)までに日生研宛てに送付いただけますよう、発表者の皆様をお願い申し上げます。

### 原稿記載方法

標本番号、表題、提出機関を別にして、一題あたり本文は約1,000文字とします。

項目は原則として動物(動物種、品種、性別、年齢の順)、臨床症状、剖検所見、診断、考察、参考文献に大別します。文章の最後に文責者を記載して下さい。

### 図(写真)

縦12cm×横16cmの領域に収まる図(カラーのJPEG画像、図の番号を記入)を希望するレイアウトにして提出して下さい。図の説明は本文中に記載して下さい。

尚、詳細についてはホームページに掲載済みの記事を参照して下さい。

### 原稿の送付先

原稿および図は以下の宛て先にメールで送付いただけますようお願い致します。

一般財団法人 日本生物科学研究所 研究部 富岡ひとみ 宛

メールアドレス: [h-tomioka@nibs.or.jp](mailto:h-tomioka@nibs.or.jp)

(〒198-0024 東京都青梅市新町9-2221-1)

## 研修会当日の質問用紙 (コピーしてお使い下さい)

標本番号： \_\_\_\_\_ に対する質問書

1. 臨床事項について

2. 所見について

3. 診断について

(この用紙は受付に備えてある意見箱に該当演題が始まる 30 分前までに投函してください)

----- (キリトリ線) -----

## 研修会当日の質問用紙 (コピーしてお使い下さい)

標本番号： \_\_\_\_\_ に対する質問書

1. 臨床事項について

2. 所見について

3. 診断について

(この用紙は受付に備えてある意見箱に該当演題が始まる 30 分前までに投函してください)



株式会社

ボゾリサーチセンター



# 各種物質・製品の 安全性試験を実施します

## 対応GLP

- 医薬品
- 再生医療等製品
- 化学物質
- 安衛法
- 医療機器
- 動物用医薬品
- 農薬
- OECD



## 動物種

- ラット・マウス (免疫不全動物を含む)
- イヌ
- ミニブタ
- サル
- ウサギ・モルモット



お問い合わせをお待ちしております。

WEBからどうぞ! [ボゾリサーチセンター](#) 🔍

URL: <http://www.bozo.co.jp>

TEL: 03-5453-8101 (営業部)



つくば研究所



東京研究所



御殿場研究所



函南研究所



ITR Canada

すべては徒歩圏内に  
絶好のロケーション

私たちは  
ホテルならではの  
おもてなしで

大切なお客様を  
お迎えいたします



## Hotel Metropolitan Morioka

TEL : 019-625-1211 (大代表) 本館 / 盛岡市盛岡駅前通 1-44

<http://www.metro-morioka.co.jp> NEW WING / 盛岡市盛岡駅前北通 2-27

# 動物病理カラーアトラス 第2版

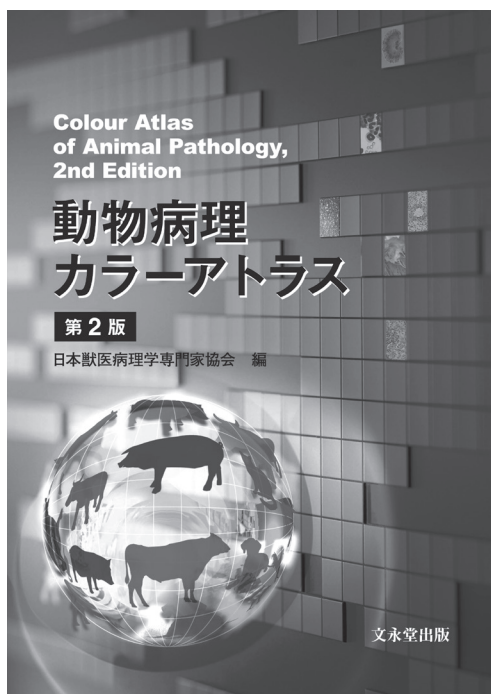
Colour Atlas of Animal Pathology, 2nd Edition

日本獣医病理学専門家協会 編

The Japanese College of Veterinary Pathologists (JCVP)

1990年に『獣医病理組織カラーアトラス』が上梓され、2007年には症例を追加し、肉眼写真も加えた『動物病理カラーアトラス』が出版されました。いずれも精選された写真と的確な説明文からなり、動物の病理学を初めて学ぶ学生諸君ばかりでなく、日本獣医病理学専門家協会（JCVP）の会員資格試験受験を目指す諸氏、獣医病理学の指導的立場にある中堅の研究者に至るまで幅広い層に利用されてきました。『動物病理カラーアトラス』の出版からすでに10年が経ち、獣医病理学の教科書やアトラスで取り上げるべき病気もだいぶ変わってきました。この度改訂した本版では、確実に学ぶべき基本的な病変については前版のまま、あるいは若干手を加えて掲載していますが、近年新たに問題となった感染症や品種特異的疾患などについては新しく項目を設け書き下ろしました。（「序」より一部抜粋）

略目次：第1編 脈管系（心（囊）膜，心外膜の病変／心内膜の病変／心筋の病変／心臓の腫瘍／血管の病変），第2編 造血器，リンパ性器官（骨髄の病変／リンパ節，脾臓の病変／胸腺の病変／ファブリキウスの病変），第3編 呼吸器系（上部気道の病変／肺の病変／気嚢の病変），第4編 消化器系Ⅰ - 口腔，消化管 -（口腔の病変／食道の病変／胃の病変／腸の病変），第5編 消化器系Ⅱ - 唾液腺，肝臓，膵臓 -（唾液腺の病変／肝臓の病変／膵臓の病変），第6編 泌尿器系（腎臓の病変／膀胱の病変），第7編 生殖器，乳腺（雄性生殖器の病変／雌性生殖器の病変／胎盤の病変／乳腺の病変），第8編 神経系（中枢神経系の病変／末梢神経系の病変），第9編 感覚器（眼科の病変／耳道の病変），第10編 内分泌系（下垂体の病変／甲状腺の病変／上皮小体の病変／副腎の病変），第11編 運動器系（骨の病変／関節の病変／骨格筋の病変），第12編 皮膚・軟部組織（皮膚の病変／軟部組織の病変）。



B5判・340頁

定価（本体17,000円＋税） 送料520円

ISBN 978-4-8300-3268-4

- 約1,160点の肉眼および組織写真を掲載
- 60名のエキスパートにより解説された最新の情報
- 獣医師国家試験，JCVP会員資格試験に必携の1冊

 文永堂出版

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-18  
<https://bun-eido-shuppan.com>

TEL 03-3814-3321  
FAX 03-3814-9407